

SHIPプロジェクト2001年度の研究経過報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学学術フロンティア推進事業「社会・人間・情報プラットフォーム・プロジェクト」, サイバー法研究会, 法情報学研究会 公開日: 2015-10-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 夏井, 高人 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17605

SHIP プロジェクト 2001 年度の研究経過報告

法学部教授 夏井高人

SHIP プロジェクトでは、XML の技術を応用した社会科学系データベースのプラットフォーム技術の開発を進めている。

2001 年度においても、XML の仕様や技術に関する最新の動向に関する調査研究を継続して進めながら、基本技術の開発及びその特許化等について検討を重ねた。

また、開発中のシステムにおいて実証実験に用いるためのデータとして、大審院判決全部及び法律新聞記事（明治期）を含む構造化文書関連特許公開データの蓄積を進めた。加えて、XML を応用した法令対訳管理システムの開発のための基礎データとして米国法の翻訳等の作業も行った。このほか、将来の Web コンテンツとしての利用を模索するため、オーストラリア（ニューサウスウェールズ州及びタスマニア州）を訪問して、同地における州政府の法情報データベースの運用状況等を現地調査し、また、タイ王国チュラロンコン大学を訪問し、同大学と慶応大学との間でなされている衛星講義システムの運用体制、コンテンツ作成の実情及びシステム構成等を調査した。

他方で、2001 年度には、データベース用の画像データ及びテキスト・データのフォーマットについて検討を進め、実験モデルを作成した。2002 年度は、その一部を明治大学内で公開し、アンケート調査を実施する予定である。

また、2000 年度に引き続き、システムを Web に接続するために不可欠なセキュリティの確保に関する検討も重ねた。なお、SHIP プロジェクトの Web ページの一部を XML 及び XHTML とする実験を開始した。

SHIP プロジェクトの研究成果は、広く社会還元されることが求められていることから、2001 年度においても、シンポジウムを開催し、法情報データベースに関する法的、社会的問題等を多角的に検討している結果を公開すると同時に、XML の技術面に関する研究成果も報告した。これら、シンポジウム等の概要は、次のとおりである。

（共同シンポジウム）

2001 年 5 月 19 日、明治大学駿河台校舎において、国際シンポジウムとして、「第 4 回共同シンポジウム」を開催した。研究テーマは、「法情報データベースの社会的役割」であり、プロジェクト・リーダーである夏井高人（明治大学法学部）、ピーター・マーチン教授（コーネル大学）、グラハム・グリーンリーフ教授（AustLII）及び山本順一教授（図書館情報大学）からの講演及び研究報告がなされた後、指宿信教授（鹿児島大学）の司会によりパネルディスカッションが行われた。

（研究報告）

2000 年 11 月 10 日に東京で開催された「XML フォーラム；XML 開発者の日」において、プロジェクト・リーダーである夏井高人から、「判決データベースにおける時的要素の機能と XML 技術応用の可能性」と題する研究報告がなされた。

（成果物の印刷・配布）

2000 年度に開催された第 3 回共同シンポジウムの日本語版を印刷・配布したほか、2001 年度に開催された第 4 回共同シンポジウムの英語版を印刷し、内外の主要な図書館その他の関連機関に配布した。

このほか、これまでの研究成果は、Web からダウンロード可能な PDF ファイル等によっ

第5回共同シンポジウム講演要旨集

て逐次公開してきており、特段の事情がない限り、今後もこの方針を維持することとした
い。

以上